

2020年度 帝塚山学院小学校 学校評価

1. めざす学校像

- ・ 「主体的」「対話的」「探求的」「創造的」な学習を研究・実践する学校。
- ・ 礼節を重んじる立ち居振る舞いの身についた、品格ある「人」の育成する学校。
- ・ 時代を生き抜き、社会に大きく貢献できる「人間力」を育成する学校。

2. 中期的目標

(1)教育力の強化。

- ・ 教員の研修研鑽の強化と、教員の質の向上。
- ・ 児童の学力向上、進路指導への取り組みの強化。
- ・ 新学習指導要領による、新教科・新内容の確立と充実。
(ICT教育、道徳教育、英語教育、キャリア教育)
- ・ 生活指導の強化と徹底
- ・ 学校行事の見直しと強化(教育効果、社会状況に留意して)

(2)組織力の強化。

- ・ 組織改革の実施。校務分掌の改編と整備、またその周知。
- ・ 勤務時間管理と適材適所に必要な人材確保。
- ・ 生活指導方針・学習方針の保護者への啓蒙活動・連携強化。

(3)財務力の強化。

- ・ 児童定員の確保。
- ・ その他、資金調達と運用。

3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価の結果と分析

自己評価アンケートの結果と分析	学校関係者評価の結果と分析
<p>特に評価が高かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校ホームページにおいて可能な範囲で学校の様子を情報公開している。 ・ 入学者を確保するための十分な募集広報活動を組織的に行っている。 ・ 英語教育について指導内容の精査を行い、また、分割指導の強化に力を入れている。 ・ コミュニケーション能力を高め、他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。 ・ クラブ活動は活発に行われている。 	<p>特に評価が高かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校は、アレルギー児童に対して保護者への事前調査、教員の研修などを行い、対応食の提供や緊急時の対応について準備している。 ・ 水難救助訓練や、防災・防火訓練の実施及び、施設・設備の安全面について充実している。 ・ 子どもたちは、安全に登下校でき、安全な学校生活を送っている。 ・ 児童は、はじめのある生活を送り、仲良く楽しく活動している。 ・ 学校は、お子様や保護者からの相談に、ていねいに応じている。
<p>相対的に評価が低かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼小中教員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。 ・ 教員全体が、評議員会、理事会の役割や機能について理解しようとしている。 	<p>相対的に評価が低かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校と中学校は連携できている。 ・ 保護者は、ルール・マナーを守っている。 ・ 学校は、中学校進学に関する情報を提供するなど、進学指導を適切に行っている。

※学校関係者評価は、全保護者を対象にアンケート調査を行っており、その結果を分析している。選択肢式だけでなく、自由記述欄も設けており、その結果も分析し、全教員に周知するとともに、関係部署で対策を講じるようにしている。なお、アンケート結果は、HPに公開している。

学校関係者評価委員会からの意見

○ 全般について

- ・ 今年度はコロナの影響も大きいと思いますが、昨年度と比べて大きく改善したとは言いにくいと感じている。
- ・ 児童の年齢や体力などの問題で差があるのは当然であるが、設備として、中高で出来て、小学校では出来ないということがないように、同じレベルに設備もそろえるなどの必要がある。
- ・ 安全な登下校、学校生活、防災訓練の実施、施設・設備の安全面の充実、アレルギー児童への対応など、子供の生命を守るための事柄全般が、高評価であることが素晴らしい。引き続き、安心・安全な学校であってほしい。

[改善] 中長期的な計画として、小学校環境・設備の改善・改良を検討していきたい。

○ コロナ対応について

- ・ホームページなどでの情報公開はある程度できているが、コロナなどの際の情報公開の在り方、一般には公開しないまでも、保護者への連絡のタイミングなど、特に中学や高校にもお子様がいらっしゃるご家庭では、中高では連絡が来ているのに小学校では来ていない場合など、情報を出さないのか、出せないのか、不安をあおることになる。帝塚山学院全体としての、情報コントロールが必要である。
- ・コロナ禍による休校時の児童への課題提供や解説動画配信については満足しているし、感謝している。ただ、課題に関しては、高学年になると特に、手間がかかり、かなりの負担だったという保護者の声がよく聞かれた。休校時の課題については、問題点を挙げ、今後少しずつでも改善していただければと思う。
- ・コロナ禍の大変な中でも行事等どうすれば開催できるのかなど先生方が沢山考え、動いて下さっていることを実感している。時差登校などにも迅速に対応していて、安心して通学させる事ができている。

[改善]今年度も、休校時対応などは、常に最善の策を考えて、動いていく。

○ 保護者のマナーについて

- ・学校周辺だけでなく、駅周辺などのルールやマナーについてよく耳にする。学校側からも学校周辺だけでなく、駅周辺などへの注意喚起をお願いしたい。授業参観の時に、保護者の雑談がひどい、というのが他校からの口コミにあったようだ。
- ・昨年度はコロナ禍で保護者が参加するような学校行事が少ないにも関わらず、そのような評価となっているのは問題だと思えます。子供の教育には保護者との連携が必須であるため、あまりにもルールやマナーから逸脱している保護者に対しては、毅然と対応する必要性もある。あまり改善しているとは言えないので、学年PTAや書面でも都度注意を促す必要があるか。PTAから保護者に向けて発信することも一つの方策かもしれない。

[改善]お声かけいただくように、PTAとも協力し、教職員としても、今まで以上の注意を払っていく。

○ 教員の質の向上について

- ・教員研修の機会を増やすことに賛成する。学院の教育理念、教育方針などを新任の先生方も熟知され、学院らしさを今後も失わず、引き継がれていくことを望む。若手の先生方には、言葉遣いや態度など、帝塚山学院の教師として、児童に指導する立場としての自覚をもって行動して頂ければと思う。

[改善]教員研修は、内外ともに充実させていく。

○ 進路指導について

- ・特に男子の進学が少ないのが気になります。内部の利点がないと小学校の入学(男子)確保も難しくなるのではないかと。学力面だけでなく部分も評点となる具体的な説明も早いうちからほしい。
- ・進路ガイダンスを4年生から行うなど、進学指導も間違いなく良くなっている。しかしながら、

内部進学状況(特に男子)などをしっかりとお伝えすることは、より低学年の早い段階から望ましいと考える。保護者の認識も変わり、家庭でも必要な対策をとりやすくなるのではないかと。

- ・内部進学を希望するご家庭の大半は、どのようにして受験に挑めばよいのか、多くの方が苦悩されていると思う。内部進学を強く希望する男子児童とご家庭には、早い段階から受験指導をし、中高と連携して、何とか希望を叶えるべく、より手厚いサポートがほしい。
- ・受験を終えた方々、もしくは、受験を控えている5年生の方々から、進学の指導などについてのアンケートをとるなど、意見を伺うと、もっと見えてくるものがあるかもしれない。
- ・泉ヶ丘へ進学したい生徒が、希望通り進めない現状があるので何らかの改善を望みます。明確な基準を示すなど、合格に向けて改善すべき点などの指導ももっとするべきである。

[改善]2月は、進路ガイダンスを全学年に動画で配信。「進路通信」などを作成し、より充実していく。

○ 学校給食について

- ・子どもからも「美味しくない」とよく聞く、コロナ禍で難しいとは思いますが味付け面も改良してほしい。保護者からもあまりいい話は聞かない。

[改善]児童が心から満足する給食を心がけ、試食や話し合いを繰り返す。

○ 学校の連携について

- ・内部進学についても、コロナ禍でもあるのでより一層連携が必要ではないか。「幼小中一貫教育体制」については、PTA や保護者からも意見が多く出ていると思うが、先生方の自己評価でも例年低評価となっている。もっと評価を上げるためにはどんな工夫が必要か、中高との連携は具体的に何を行ったのかなど、実施された事項に絞って、より深くアンケートを求めるなどして一つ一つ改善を行う必要があるのではと感じている。
- ・先生方が行き来をして、相互理解を深める、クラブ活動や課外活動(保育)などで子供たちの交流を図るなど、より連携を強化するための具体的な方策を打ち出していきたい。
- ・小学校の努力だけでは難しいので、組織全体で、連携強化を図る取り組みを講じる必要がある。子供たちにとってはもちろん、学校としてもアピールポイントとなるのではないかと。
- ・情報を共有する仕組みを構築するなどして、それぞれの学校の良い点、成功例などを取り入れやすくして、組織としてますます強力なものにしていきたい。
- ・小学校と中学校の連携が出来ていない、というのが毎年評価になっている。先生方の意見も同じなので、保護者の被害妄想ではなく本当にそうなのだろうと思う。昨年度はコロナ罹患者が出た際の対応で問題が浮き彫りになったが、引き続き改善を願う。
- ・低評価の理由は、内部進学に関することが主かと思う。内部進学を基本されるご家庭の多くは、小学生に遅くまでの塾通いをさせたくない、小学生に無理に勉強させて勉強嫌いにさせたくないなどの考えから内部進学を希望して学院小学校へ入学させたご家庭が多いのではないかと。しかし、そのようなご家庭ほど学校の勉強さえしておけば良い、学校生活を頑張っていれば良いと考えがちである。しかし、泉ヶ丘中学校への進学は現状、通塾なしでは厳しい。

[改善]幼小中高連携に具体的な方針を今後検討していく。

○ 英語教育について

・英語では、TSSとの連携を希望します。

[改善]TSSとの連携方法を模索していく。

○ 行事について

・特に、コロナで様々な行事が出来ない、制限があるなか、公立の学校で出来ていることが私立の帝塚山で出来ない時など、残念に感じる。

・PTAの行事に関して、先生方が大変協力的だと感じる。また、保護者の皆様も積極的にお手伝いを申し入れ、ご協力いただく。この学校、保護者、PTA間の連携の強さは、学院小学校が誇れるものの一つである。今後ともできる範囲で開催できることを願う。

[改善]コロナ禍で、一度リセットされた行事だが、できる限り復活させていく。

○ 学力について

・コロナ禍で、長い休校期間があったにもかかわらず、学習の進度の遅れが見られなかった。学校再開後も、不安なく、学習することができた。

・新たに、演習中心の授業を取り入れてくださり、今後のより一層の学力向上に期待しております。

○ アンケートについて

・今回のアンケートは、ざっくりとした質問だったように見受けられるので、もう少し、詳細なものにしていただいたほうがよかったかもしれない。

○ いじめ問題について

・担任の先生だけに任せるのではなく、専門チームがあり、ベテランの先生方が真摯にお話を聞いてくださいます。子供や保護者に寄り添ってくださって、本当にありがたいことだが、先生方の心のケアにも気を配っていただければと願う。

[改善] アンケートや児童・教員の意見などを拾い上げる体制を検討する。

4. 本年度の取組内容、及び自己評価

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
<p>教育力の強化</p>	<p>教科指導力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力育成の具体化と、発展 ・主体的・対話的で深い学びを実現するための計画的研修 ・シラバスの作成と教材開発 ・併設中学校の入試問題の分析と共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力テストの結果を共有。授業に反映させていく。 ・協働学習にICTを活用した授業の展開。 ・カリキュラム進度の変更は落ち着いた状態。コロナの影響により一度停止している。 ・演習授業や特別講習会の実施。 	<p>学校評価アンケートでは「学校は基礎学力をつけている。」87%、「学校は、宿題や補習などを通じて、学習内容の定着を図っている。」89%と高評価であり、自己評価でも「学習指導について」は高評価が92%、「外部模試について」が92%である。</p> <p>職員会議での、本校児童の相対的得意・苦手分野の共有と教科部会で検討。授業にいかしていくことは継続。</p> <p>自己評価「校内研修（探究型学習）について」は高評価が85%であった。90%以上を目標に今後も研鑽を続ける。</p> <p>自己評価「教育計画（シラバス）について」は高評価が87%であった。コロナ禍で一度崩れたが、急速に立て直し、改めて、作り上げる。</p> <p>自己評価「ガイダンスについて」は高評価が92%である。しかし、学校評価アンケートでは「進学指導を適切に行っている」72%、「小学校と中学校は連携できている」64%となっており、保護者に伝わっていない現状が見える。</p> <p>もっと、進学指導がいきわたるように、動画配信などを通して活動する必要がある。</p>

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
教育力の強化	教員の質の向上、担任の学級経営力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の教科指導力の向上 ・学級経営力の向上 ・教員研修の継続。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専科制をより強化する。高学年委においては、担任の国語・算数力の強化を図る。 ・専科教員の小免許取得促進。初任者研修の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導については、コロナ禍でありながら、昨年より学校評価アンケートでは評価が上がった(前述)。今後は、保護者アンケートで90%代になるよう、努力していきたい。 ・学校評価アンケート「学校は、お子様や保護者からの相談に、丁寧に応じている。」92%と高評価になっている。また、自己評価「教員の質の向上について」は95%、初任者研修についてが92%、担任の学級経営については「97%と、それぞれ高評価であることから、学級経営への取組は現在の方向性で、しっかりと行っていきたい。
	児童の学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けた取り組みの教科と実践 ・「基礎学力表」の活用 ・「学力向上教材」の作成と実施。 ・TASCの参加促進と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後補習、国算の演習授業、講習会の現状を把握。 ・内部推薦合格可能性「基礎学力表」の周知と活用。 ・高学年の「自学教材」、低学年の「自学教材」の作成と実施。 ・TASCの参加促進策と指導の充実をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に関わる学校評価アンケートも自己評価も高い水準となっている(前述)。 ・ただし、学習指導の充実を求めているのが21%と、こうモック中は最も高いことも受け入れる必要がある。 ・学校評価において、放課後の拡充を求めているのは3.4%であった。TASCも充実が見られる。

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
教育力の強化	進路指導への取組強化	<ul style="list-style-type: none"> 外部模試の結果の分析と情報共有。 進路ガイダンスの内容充実 漢字検定の活用強化 	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル基礎学力表、受験までのスケジュール、受験までの効果的勉強方法を作成、伝達。 より具体的な内容にする。 漢字検定の分析を利用 	<ul style="list-style-type: none"> 進学に関する部分では「評価指数項目」にあるようなことは、実践できた。しかし、自己評価と学校評価に差異があるので、埋めていくことができるようなアプローチを考える必要がある。
	ICT教育	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台ICT機器所持（2021年）に向けての準備。 教員の実践研究 イノベーションスタディーズの確立と発展 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に一人一段ICT機器の所持を実施する。 教員の実践に向けて。 本格的に1年間行われる新教科としての確立。 	<p>自己評価「ICTの授業実践」の評価が85%と高評価だが、「イノベーションルームの活用」が72%となっている。イノベーションスタディーズや英語科では教室として使用されているが、他ではまだまだ使用されていない。</p> <p>自己評価「システム研修」の評価が92%であるように、ICTやシステムの研修体制は整備された。</p> <p>しかし、学校評価アンケート「コロナ禍による休校時、学校は児童への課題提供や解説動画配信などの体制を整えている」の評価が77%であった。この部分は、今年度最も注目された部分である。様々なコンテンツの採用不採用も含めて、今後の体制づくりが課題となる。</p>

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
教育力の強化	道徳科目	・道徳科目の策定	・「道徳」を身近に考える「独自性」の追究。	学校評価アンケート「学校は、情操教育に力を入れ、豊かな心を育てている」は90%の高評価である。しかし、自己評価「人権・道徳教育」の「研究体制」は62%、「教育体制」は69%となっている。保護者の満足に対して、教員全員の取組とはなっていない。全員に伝播するよう体制強化が必要である。
	英語教育	<p>・英語教育の達成目標の策定。</p> <p>TOEFLPrimaryの受験対策の構築。</p> <p>・分割指導の強化。</p> <p>・TSSとの連携</p> <p>・学院小学校優先・内外定員の明確化</p> <p>・実践的英語力の習熟</p>	<p>TOEFLprimary STEP1による英語力の数値化と可視化を行い、指導の方向性を定める。</p> <p>・授業内でもTOEFLPrimaryを想定した教材も扱う。</p> <p>・英語科とTSSの情報共有。</p> <p>・学院入学予定者に、説明見学会。</p> <p>・閑空での外国人へのインタビュー実習などのノウハウを取り入れる。</p>	<p>学校評価アンケート「学校は、国際理解教育を積極的に進めている。」は81%と高評価であった。しかし、昨年度の92%よりは大幅に下がった。コロナ禍により学外体験ができなくなった結果が出たと言える。</p> <p>また、自己評価アンケートの「英語教育体制」は97%の高評価。「国際理解」についても97%と高評価である。「TOEFLの資格推進」95%である。順調に実施できているので、今後も継続する。</p>
	キャリア教育	<p>・キャリア教育の充実</p> <p>・「キャリアパスポート」の実施。</p>	<p>・キャリア教育の充実と精査を行う。</p> <p>・「キャリアパスポート」を実施する。</p>	<p>・自己評価「キャリア教育」の「研究体制」は51%、「教育体制」は64%となっている。実施してはいるが、教員全体には周知されていないようである。</p>

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
教育力の強化	教室整備	クラス教室の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の ICT 教育などに対応できる教室改装計画。 ・窓枠木枠の撤去 	<p>長期的、中期的な視点で改装を行っている。</p> <p>今年度設置の「窓枠木枠」により荷物の整理整頓は格段によくなった。</p>
	生活指導の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間力」「生活力」を高める指導を体系化・強化。 ・いじめ防止対策の強化。 ・学校生活支援会議や、教員間の連絡による、児童に関する情報共有を徹底。 ・PTA との連携強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、効果的な策を講じていく。 ・組織的対応ができる体制の強化。 ・要支援児童の情報共有。 Siems の「指導記録」を利用した情報共有。 ・定期的な会議による、指導方針の共有化。 	<p>学校評価アンケートにおいては、「児童は、けじめのある生活を送り、仲良く楽しく活動している」が、92%の高評価。「子どもたちは、安全に登下校でき、安全な学校生活を送っている」が95%、「いじめ問題等について、教員と保護者が連携をとりながら、組織的に対応できている」が87%の高評価。「生活指導(しつけ)の充実」を挙げた保護者が15%(昨年度32%)であった。</p> <p>また、自己評価アンケートの「児童の指導」の「生活指導について」が88%、「いじめ問題について」が92%、「支援委員会について」が95%、「カウンセリング体制」が92%のそれぞれ高評価である。組織的な生徒指導の方法の確立できつつあり、保護者、教員の評価ともに近いものである。</p> <p>学校評価「PTA は、学校運営や学校行事を支援する取り組みを積極的に行っている」の評価が91%。自己評価「保護者との連携について」の評価が92%と、高い評価となっている。今後も現状の関係性を継続する。</p>

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
教育力の強化	学校行事の見直しと強化	・各行事の確認と検証・保護者の満足度の向上	行事ごとのアンケートを実施し、満足度を把握する。	自己評価アンケートの「学校行事」も「スポーツ芸術文化」も、92%の高評価であった。学校評価アンケート「コロナ禍の制限下でも学校行事はできる範囲で行われており、児童の自主性の育成に役立っている」89%の高評価。だが、昨年度の同系統質問項目は96%であり、コロナ禍の影響を受けた。今後もできる限りの行事を実施できるように努力していく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・管理職と教員、事務職員の一体運営強化 ・業務必携の作成 ・管理職と教員との面談実施 ・健康教育部新設 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議にて実施実践の方策を決定する校長からなるトップダウンの円滑化を諮る。事務職員の参加も予定。 ・業務必携の完成。 ・よりよい組織を目指す。 ・児童の健康を中心とした事柄について担当する部の新設・活動。 	<p>自己評価アンケートの「校務分掌」に関しては、85%の高評価であった。「会議の有効性」も87%(昨年度70%)となった。このまま、評価が上がるように、さらなる工夫をしていく。</p> <p>自己評価「教育理念について」も85%となっており、校長の考え方が浸透していることがわかる。</p> <p>自己評価「保健衛生」が92%の高評価である。</p>
組織力の強化	併設校との校務運営の連携	幼・小・中・高各部の現場教員が交流し、情報交換する機会の設定。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園…ファーストプログラムを介した教育連携のための情報交換。 ・中高から、講師を招聘し、連携の強化を図っている。 	学校評価アンケート「小学校と中学校は連携できている。」64%(昨年71%)の結果であった。自己評価「幼小中一貫教育体制」の評価が39%と低評価。保護者よりも現場教員が連携のできていなさを感じているということである。新しい取組を立案する必要がある。

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
組織力の強化	児童情報に対する教員連携強化	・siems、共有フォルダの積極的活用。	ペーパーレス・情報共有・職務負担軽減のために、「siems」や共有フォルダの使用方法を模索。	自己評価アンケートの「学年担当の教員が、協力し合い、学年目標に向かって教育活動の充実を図っている」は90%の高評価。 「システム研修」の結果からも、これらの対応が円滑に進んでいることがわかる。
	勤務時間管理	教員の業務軽減	管理職、主任の設置による、業務分担を実施。	勤務時間の短縮は、少しずつ実現してきているものの、まだ完全とは言えない。今後も周知徹底が必要。
	人材の確保と、適材適所の配当	・担任の学級経営力の向上 ・専科制の拡充 ・小学部における必要人材の人数、配当計画の策定。	研修を含めた、担任の学級経営力の向上を目指す。 ・体育、社会科専科制導入 ・より強固な組織・人材の計画立案	「教育力の強化」―「教員の質の向上」と同意。
	保護者との連携強化	・個人懇談の充実 ・PTA集会などの機会に、保護者との連携強化 ・学校評価アンケート、及び塾・習い事調査の実施と分析	各学期懇談の言及事項や懇談の在り方を明確化。 ・実施内容の精査。 ・結果を職員会議で共有	学校評価アンケート「授業参観や個人懇談などは、適切な頻度で行われ、学校の様子をうかがい知る機会として機能している」の評価が90%（昨年度の同内容項目97%）であり、コロナ禍において満足に実施できなかった影響がある。自己評価「保護者との連携について」は92%の高評価である。来年度以降も、できる限り実施できるように模索をしていく。

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
財務基盤力の強化	児童定員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容の充実をはかりつつ、積極的広報を目指す。 ・外部進学と内部進学の見直し ・保護者との接触機会の増加を検討。 ・プレゼンテーションの完成度を高める。 ・募集活動に対する教員意識の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代にいかした教育内容を充実し広報に活かす。 ・目標設定の有無。 ・機会増加の検討。 ・教員の意識統一。 	<p>114名入学予定。</p> <p>入試広報部は、積極的に活動できている。</p> <p>自己評価アンケート「募集広報活動体制」は97%と高評価である。</p> <p>少子化の波の中、積極的な活動体制は、続けていく。</p>
	外部資金の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・教室改装に向けての補助金申請の取組強化。 ・教育委員会に向けての、助成金の増額要請。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所・法人本部と協働する ・教育委員会へ私立小学校の現状を説明し、助成金の増額を訴えていく。 	<p>自己評価アンケート「財務に関する意識」が44%（昨年度39%）ととても低い評価になっている。教員間に財務の続けて説明をして、理解してもらえるようにする。</p>
	経費削減	法人本部と協働し実施	必要経費と、削減できる経費の精査を常に行っていく。	

※ 自己評価アンケート、及び学校関係者評価の「高評価」「低評価」とは、それぞれ各設問に対して「達成できている」「ほぼ達成できている」の2つを合わせて「高評価」、「あまり達成できていない」「まったく達成できていない」の2つを合わせて「低評価」とした。